



化学療法中の嘔気（吐き気）、嘔吐

嘔気・嘔吐は抗がん剤により脳にある嘔吐中枢が刺激され起こります。
 嘔気・嘔吐により食欲不振、気分の落ち込みが生じ生活の質の低下、衰弱につ
 ながり、治療の中断が余儀なくされることがあります。
 化学療法中の嘔気・嘔吐治療に関しては、その**予防が重要**となっています。

薬の催吐リスク分類

- 急性 抗がん剤投与24時間以内に起こる
- 遅発性 抗がん剤投与開始24時間以降に起こる
- 予測性 以前の嘔吐、嘔気の経験から主に精神的要因により起こる



薬の催吐リスク分類

- 高度催吐性薬剤：ほぼすべての患者
 シスプラチンなど
- 中等度催吐性薬剤：大半に急性が認められ遅発性も問題になりうる
 オキサリプラチン、イリノテカンなど
- 軽度催吐性薬剤：低頻度に急性が認められ遅発性は問題にならない
 フルオロウラシル、カペシタビン、テガフル・ウラシル、TS-1など
- 最小度催吐性薬剤：わずかに急性が認められ遅発性は問題にならない
 ベバシズマブ、セツキシマブ、パニツムマブなど



予防するために

- ・嘔気、薬の種類により適切な時期に適切な制吐剤を使用する
- ・嘔気の出やすい時期を把握し、刺激の強い食べ物、脂っこいもの、
 匂いのきついものを避ける
- ・嘔気が出やすい時期にあえて気分を紛らわせるような予定を入れる
- ・水分不足にならないように意識して水分を摂取する
- ・便秘予防
- ・適度な運動
- ・無理はしない

